

令和4年度 調布市立第五中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標

「徳」思いやりと助け合う心をもとう。「知」自ら学ぶ人になろう。「体」心と体を鍛えよう。

目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像

生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校

ビジョンの設定理由
(本校の現状と課題)

生徒の在籍数は「命の数」である。生徒一人一人の命に「生きる力」を育むことが、調布市立学校の使命と捉えているからである。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手や状況に応じて自分の考えが正確に伝わるように工夫して表現する力。 他者とのコミュニケーションを通して、様々な意見を共有し発展させていく力。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数での発表、クラスでの発表、プレゼンテーションなど、様々な内容や形式での発表を実施する。 少人数での話し合い、クラスでの話し合い、個人で考えることを繰り返しながら、意見を深めていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 対話的な学習に主体的に取り組み、自分の意見を発信し、また他者の意見を受け入れることのできる力。 社会的課題に対して、他者と協力し、問題を解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数での話し合い活動により、全員が参加する環境を作ること、主体的に学習に取り組めるようにする。 様々な社会的課題に対し、問題を解決方法を話し合い活動などを通じて多面的・多角的に考える機会を作る。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心をもち、粘り強く試行錯誤して解決しようとする力。 課題に対し、見通しをもち、既習事項に帰着させて解決しようとする力。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元や、授業において目標を示すことで、見通しをもって学習に臨めるようにする。 基礎的、基本的な知識を定着させるためのインプットの時間、その利用方法を考え、表現するためのアウトプットの時間の両方を、計画的に実施する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢 基礎、基本的な知識と技能の定着 科学的な事象に対して、自らの思考をまとめ、判断し、表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの目標を明示し、見通しをもって取り組ませる。 授業内容の振り返りを行い、知識を定着させる。 グループワーク、実験、観察、レポートの作成を行い、生徒が主体的に学ぶ時間の充実を図る。 環境問題や日常での話題に触れ、学びを生活に生かす。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 生き生きと授業や学校生活に取り組む生徒の育成。 自ら学習し、表現しようとする力。 音楽を通じてコミュニケーション能力を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の授業の工夫や個々が意欲的に学習に取り組めるよう、教材を含めて教える側の研究を日々進める。 歌唱等を通して、表現できる時間と場を多く設定する。 相互学習の場を設ける。互いに尊重しあえる環境を作る。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 自ら楽しく表現活動に取り組むことにより、表現力の向上を身に付けさせる。 意欲的、主体的に表現活動に取り組む態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な題材に取り組むことで、生徒に興味関心を持たせる。 表現方法の多様さを知り、表現方法の技術を学ぶことにより表現能力を伸ばす。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもって、目標に向かって努力する姿勢を身に付けさせる。 主体的に運動に親しむ態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標の明確化 「できた」という達成感を毎時間味わうことができるよう、一人一人への声掛けを増やす。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活とつなげ主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ものづくりを通して、創造する力と技術力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的、基本的な知識や技能の定着を図る。 ICTを活用するなど、思考力、判断力、表現力の育成を図る場面を増やす。
外国語 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> 聞くこと：身近なことに関する話や指示を理解することができる力。 読むこと：簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる力。 話すこと：身近なことについて簡単なやりとりをすることができ、準備をすれば、スピーチやパフォーマンスをすることができる力。 書くこと：自分のことや身近なことについて、まとまりのある文章を書くことができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 帯活動等を通して、基礎基本を定着させる。 ペア・グループ学習を通して、良い表現を生徒同士が学び合う機会を増やす。 ペア・グループ学習において、個々に役割を与えて学習させることで、学習に粘り強く取り組む姿勢を身に着けさせる。 発表前には繰り返し準備・練習の時間をとり、自信をもってパフォーマンスに取り組めるように授業を計画する。

道徳科	<ul style="list-style-type: none">・自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考える学習を通して、道徳的な判断力。心情、実践意欲と態度を育てる。・集団や社会の一員として主体的に生きる意欲を高め、思いやりのある心をもって生活する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none">・教材、ワークシート、板書のユニバーサルデザインの工夫を行う。・自己理解や他者理解を深める学習を展開し、自己の生き方や人権について深く考えることのできる力を養う。・学校や家庭の日常生活の中で、自ら考えを深めていくことができ、社会に繋げる力を養う。
------------	---	---